

# 共同集配社会実験「まちなか eco 共同集配ステーション」の実施結果について

## 1 目的

歩行者にやさしい魅力的な都心づくりを目指し、貨物車の流入抑制や路上駐車削減等の効果を検証するとともに、共同集配の実現可能性についての検討を行うため、共同集配に関する社会実験を実施した。

## 2 概要

### (1) 実施主体

広島市都心交通対策実行委員会<sup>(※)</sup>、広島市

<sup>(※)</sup>主な構成メンバー

広島市中央部商店街振興組合連合会、袋町地区社会福祉協議会  
社団法人広島県トラック協会、中国運輸局、広島市（事務局）

### (2) 実施期間

平成23年11月28日（月）から平成24年2月29日（水）までの約3か月間

### (3) 参加事業者

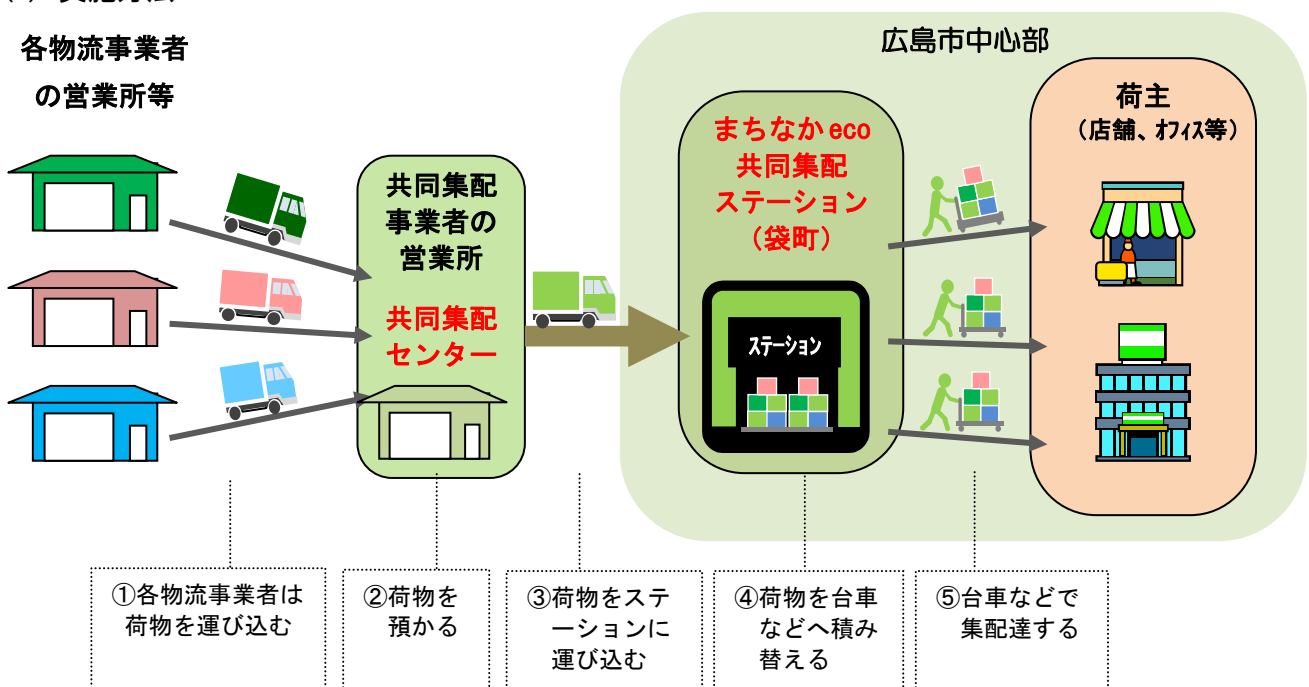
7社（共同集配事業者である福山通運株式会社を含む）

### (4) 対象エリア・対象貨物

袋町、本通り、三川町、新天地などの商業施設が集積している都心のエリアに集配される一般商業貨物

### (5) 実施方法

各物流事業者  
の営業所等



### (6) その他

ア 共同集配手数料

箱もの120円/個、袋もの100円/個、メール便20円/通

※平成21年度の社会実験では一律120円/個

イ 顧客情報の管理等

参加事業者、共同集配事業者、実行委員会の3者間にて、情報の機密保持、事故・苦情に対する責任所在や損害賠償について明記した覚書を締結

### 【まちなか eco 共同集配ステーションの設置場所】

台車等での集配達が効率的に行えるよう、集配達エリアの中心付近に設置した。



集配達エリア



### 【社会実験の状況】



ステーションへのトラック入庫



ステーション内での荷物の積替



ステーションから台車による集配



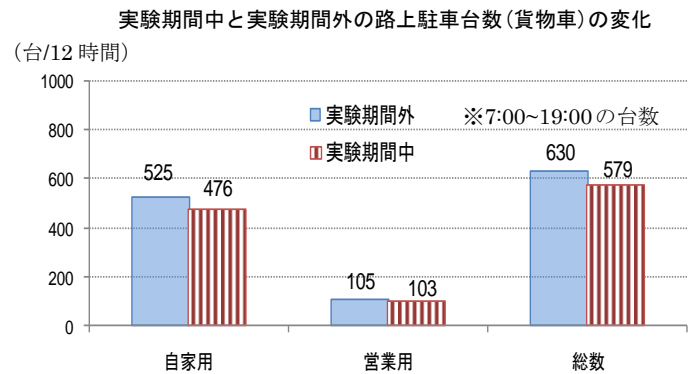
実験に合わせて実施した  
地元商店街等による啓発パトロール

### 3 実施結果

#### (1) 路上駐車台数の変化

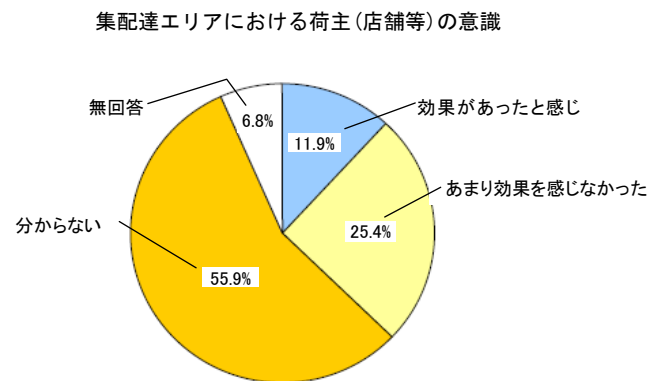
実験期間中（2月23日）と実験期間外（3月8日）の貨物車の路上駐車台数を比較したところ、実験期間中が579台、実験期間外が630台となり、実験期間中において51台減少した。

注：営業用貨物車は、社会実験参加を要請した事業者（26社）のトラック台数



#### (2) 荷主（店舗等）の意識

集配達エリアにおける荷主（袋町及び周辺の59店舗）に対して、実験によって貨物トラックの台数の減少に効果があったかについてアンケート調査を実施したところ、「効果があった」との回答は1割強であり、「あまり効果を感じなかった」「分からない」との回答が8割以上であった。



#### (3) 来街者満足度の変化

対象エリアを訪問した来街者に対して、路上駐車に関する意識変化について調査を行ったところ、実験前に比べ、荷さばき車両による安全性の阻害、歩きやすさの阻害といった問題点が改善され、まちの景観が向上したといった意見が多く、来街者満足度の向上が見られた。

普段と実験中の満足度比較

	普段		実験中
荷さばき車両の台数	2.69	↑	2.96
荷さばき車両による安全性の阻害	2.63	↑	2.81
荷さばき車両による歩きやすさの阻害	2.65	↑	2.94
荷さばき車両によるまちの景観の阻害	2.79	↑	2.95

※満足度を点数化（5点満点）

#### (4) 物流事業者の意見

社会実験への参加を要請した事業者（26社）に対して、今回の実験についてアンケート調査を行ったところ、共同集配の仕組み自体については概ね賛同が得られたが、実験に参加しなかった一部の事業者から、「一時的な社会実験のために現体制を変更できなかった」、「共同集配手数料への抵抗感があった」、「集配達エリアの荷物がほとんどない」などの意見があった。

### 4 まとめ

今回の社会実験においては、参加事業者が7社にとどまったものの、貨物車の路上駐車台数の削減や来街者の満足度の向上など、一定の効果が得られた。

また、この度の社会実験のような共同集配の方式については、参加事業者からも賛同が得られるなど、本格的な実施の可能性が確認された。